

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270201637		
法人名	特定非営利活動法人 つくも福祉グループ		
事業所名	グループホーム大和		
所在地	〒857-1165 長崎県佐世保市大和町1114番地2		
自己評価作成日	平成21年11月1日	評価結果市町村受理日	平成22年1月20日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.jp/index.html">http://ngs-kaigo-kohyo.jp/index.html</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成21年11月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気を大切にしており、利用者・職員の信頼関係も深く、まるで大家族の様です。“その人らしくいきいきと”をモットーにした、いつも笑顔の絶えない優しさに溢れた明るいホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

駐車場からホームまでの間には、民家や和菓子店、クリーニング店など生活感を感じさせる佇まいがあり、数分歩いていくと台所の窓越しに嬉しいな会話が聞こえる。煮炊きの匂いに誘われるようにホーム玄関に到着する。チャイムを鳴らし訪問を告げて玄関引き戸を開けると笑顔と明るい声で出迎えてくださり、実家へ帰省したような懐かしさと温かさに思わず「ただいま」の言葉を言いたくなる雰囲気である。利用者間の言葉のやりとりも、かつて女将さんだった方の威勢のいい声も、全てを包み込んだ和やかな環境の中で、利用者と職員が共同生活を営まれており、人間らしさが溢れるホームである。

takoto							
項目		取り組みの成果 該当するものに 印		項目		取り組みの成果 該当するものに 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと	
		3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらいが					
		3. 利用者の1/3くらいが					
		4. ほとんどいない					

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型として地域に根差したグループホームとなれる様、その点を踏まえた理念を掲げ、また、質の向上という意味合いの広く取れる理念に関しては日頃より共通理解出来る様、話し合いを設ける様にしている。	法人理念の「その人らしくいきいき」とをキーワードに【地域に愛され、親しまれ、頼りにされるグループホームを目指します】をホーム理念に掲げ、事業所を挙げて積極的な地域との関わりの場面作りをされ、利用者や職員の能力に応じて地域に溶け込まれている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	公民館の鍵の管理依頼を受けたことにより、地域の方との交流が増え、ご近所で声を掛け合う機会が増えた。他、民生委員・婦人会の方々との交流もあり、栽培療法の出来る畑を紹介して頂いたり、町内会や老人会、ホームの行事等、お互いに行き来しながら助け合える関係を築いている。	「地域に頼られるグループホーム」を最終成果に設定されており、【地域にどれだけの馴染みを作れるか】を課題として、更なるステップアップを目指されている。	最終成果に向けて日々精進されることに期待したい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いまはまだ、数名の個人ではあるが、認知症の高齢者の方への対応について相談を受けたり、又、簡単な掃除などのお世話をボランティアで行っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、貴重なご意見を頂く事が多く、事業所からの報告後の質疑応答において、質問や要望が多く聞かれ、サービス向上や地域との交流等の取り組みに生かしている。	2ヶ月に1回開催されており、日常のグループホームの活動内容の報告に関しては、参加メンバーからの気づきや問題点を話し合うことで協力体制作りや認知症啓蒙活動に反映されている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当窓口で事業所の取り組みを折りにふれ話し、相談したりしている。	担当課が主催する佐世保市介護予防委託事業や特定高齢者口腔機能向上の認定研修を受講され、協力事業所として待機されているが、担当課からの依頼の要請はなされていない。	いつでも対応できるように環境整備されると共に担当課への積極的な働きかけが期待される。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ゆとりのあるスケジュールにて余裕を持った対応が出来る様にし、「待って」「後で」をなくす様心掛けている。又、身体拘束廃止推進委員会を随時開催し、身体拘束0を目指している。	具体的な行為を正しく理解するために勉強会を開催されており、業務の振り返りや職員の認識につながる取り組みで身体拘束のないケアを目指されている。現在、安全確保のために玄関にセンサーをつけられているが利用者の状態や見守り体制に問題がないときは作動しないように切り替えながら家庭環境の提供に努められている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関する講習や研修に積極的に参加し知識を深めるようにしている。又、事業所内で虐待がないか話し合いの場を持ち、「身体拘束0への手引き」をいつでも見れる場所に設置して、再確認を促すようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援事業に関しては、当事業所でも(未だ利用者はいないが)口腔機能・認知機能維持の委託を市より受けている為、知識を深める様にしている。他、講習などに参加し、必要であれば話しをする準備をしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明をし、納得をして頂いた上で、契約を行っている。解約の際もなぜそうなるのか家族と十分話し合いをした上で、双方納得のいく形で解約を行っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者主体の運営に心掛け、その人らしく過ごして頂ける様、日常の中での利用者や家族の思いや意見はすぐに皆で検討し、速やかに対応・改善する様にしている。又、重要事項説明書に市町村の苦情相談窓口を掲載し、ホーム玄関口には誰もが利用できるご意見箱を設置し、苦情処理に関する規定も定めている。	家族会を年2回、6月と12月に開催されており、相談や満足度調査に対する回答や分析・検討・改善等の報告を通してフィードバックにつながる取り組みをされている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所はNPO法人で、運営を職員で行っている。意見の言いやすい明るい職場づくりに心掛け、計画その他は職員間で話し合い、その中で全てを決定する様にしており、個性・自主性を重んじる様にしている。	職員一人ひとりの雇用されているという意識より運営しているという前提意識が業務の捉え方に表れており、自覚されたサービスの提供がなされている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ゆとりのある勤務体制を組み、無理のない労働時間を設定しており、出来る限り給与水準も上げるよう意識している。又、学ぶ姿勢を大切にしており職員個人の希望を考慮した上で、志願した研修や講習に参加出来る様に配慮している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の能力や個性に沿った研修や講習への参加を促しており、個人の能力を伸ばしていけるよう努めている。又、職場内での勉強会においてチームケア等についての意識を高め、レベルアップが図れる様に努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会主催のブロック会議や講習会には出来る限り参加し、相互の連携と知識の向上に繋げている。又、他施設の催しへ、出向いたり、ホームへの催しに招待する等して意見交換の場を設ける様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いや希望を出来る限り引き出せる様、僅かな表情や言動にも留意し、現在の本人の置かれている状況・心情を理解し、少しでも不安を取り除く事が出来る様努めている。又、必要であればインテークの回数を増やす等して、より良い人間関係・信頼関係が築いていける様努力している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族にとって今何が負担になっているのかを聞き出し、介護負担による心労や本人に対する思い等の複雑な心情をサポートしながら、今後の方向性等、本人の思いと家族の思いを総合して、最善と思われる提案が出来る様、じっくりと話し、安心して任せて頂ける様、職員一丸となって努力している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人との面接や家族からの情報をまとめた上で、色々な選択肢がある事を説明し、当事業所が適当であるか、又他サービスが適当であるかを話し合っていくようにしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	“グループホームにおいて利用者・職員は(第2の)家族”を理想とし、共に一喜一憂し、学び合い支え合う関係づくりを目指している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族ぐるみの施設である事をモットーとし、必要に応じてはお互いの気持ちを伝えていきながら、より良い家族の関係を深め築いて頂ける様、サポートしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在の生活状況の報告・ホーム行事への案内状・ホーム便りの配送・家族会への参加を促す事等により関係の継続の支援を行っている。又、電話で直接会話をしたり手紙を出したりと、いつでも誰とでも連絡の取れる状況を提供出来る様努めている。	終末期をホームで迎えられた方の家族が近所に住んでおられ、家族と一丸となって最後まで関わりを持ち、家族からは「最後にいい親孝行が出来た」と感謝され、事業所も本人・家族に安心を提供できたことで関係継続の支援を学ばれている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のレクリエーションや年に数回の皆での外出等、コミュニケーションを図り利用者同士の友好関係を深める様に促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご縁のあった方との繋がりは最後まで大切にする様にしており、必要であれば来訪したり、電話などで相談に乗るようにしている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望や思いを日々の言葉・行動や表情等から汲み取り把握する様に努めており、それぞれに合った1日のスケジュール、動く事が好きな人・世話好きな人・静かな事が好きな人等々、個別に応じた作業やレクリエーションを行う様にしている。	観察やコミュニケーションを通して利用者の意向や潜在性などを把握され、フェイスシートに記入されている。また、新任職員への入居者の情報提供にも役立てられており、統一したケアの提供にも繋がられている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴をとり、経過と共に知り得た本人や家族からの情報をその都度追加記入し、職員で共有している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者1人1人のADLやQOL等を元に何が出来るのかの把握に努め、その日その日の表情や言動等に留意しつつ、尊厳ある暮らしの提供を心掛けている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者自身にどうなりたいのか、家族にどうなってもらいたいのかを問いかけ、その意思を反映したプランを作成している。又、日々の現状を職員同士で話し合い、その時に出たアイデアを組み込んで、個々に合った介護計画を作成する様にしている。	職員が互いのケア技術を学び合い、統一したケアの提供と情報の共有等を活かした介護計画の作成・実践で利用者の現状に即したサービスの提供に努めている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った個別プランを毎日記入しており、それを現状の把握に役立てている。又、、朝の申し送り時に気づきやアイデアを話し合える時間を設け、情報の共有を行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	365日24時間介護が基本なので、本人の受診の為の通院介助や買い物家族に代わって行う等、出来る限りニーズに対応する様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署立ち会いの下での防火訓練や栽培療法の為の畑を民生委員の方の協力を得ながら整備する等、地域資源との協働をすることで支援している。又、今のところ事例はないが、困難な事例・苦情が生じた場合には地域包括支援センターとの連携が出来る様考慮し、出来るだけ足を運ぶ機会を設ける様努力している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の承諾を受け、かかりつけ医が月に1度往診を行っており、その際医師に正確な情報を伝えて必要な指示を受けている。又、健診や予防接種等必要な医療を受け、緊急時・急変時にも往診や受診が受けられる様、協力関係を築きながら支援しており、家族にはその経過や結果を必要に応じ、速やかに報告し記録している。	往診いただいた医師に、確認と指導を仰ぐため往診内容を記録したものを渡され、適切な医療受診と健康管理につながる取り組みをされており、医療・介護連携関係ファイルに綴じられている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤で3名、非常勤で3名の看護師が介護職を兼務しており、日頃から他の介護職と情報交換をしつつ、適切な処置が行える様協力し、支援を行っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、病院関係者と情報交換を行い、利用者にとって不利益が生じる事のない様、早期退院或いは今後の対応について相談を行っている体制を築いている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早期から本人・家族・医師・職員で方針・方向性の話し合いを行い、状況の変化に応じながらその都度、細かな部分まで合意を得る様にしている。又、最期の時まで人としての尊厳を守り、安定した穏やかな気持ちで毎日を送って頂ける様、チーム一丸となって身体的・精神的サポートをする体制作りにも努めている。	重度化した場合の対応に関する指針やターミナルケアについての基本的な手順の取り決めを作成されており、医師や家族、職員等関係者で随時の話し合いを通して対応され、一連の経過をカルテに記録されている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応に関するマニュアルを準備しており、いつでも見る事が出来る様にしている。又、普通救命の講習への参加や研修等により実践力が身に着くように促している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防火訓練にて消防署の指導を仰いだり、地域住民へ協力を依頼したりと災害時の協力体制を築くように心掛けている。又、緊急連絡網や災害時備品・非常食の準備、防火訓練の中で細かな部分の確認を行い、職員の認識を高める様に努めている。	今年度の消防訓練に、初めて利用者の参加を試みられたが、消防署員の繰り返し説明と適切な誘導で訓練を無事に消化されており、手応えを実感されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生き方や好みを把握した上で、年長者としての敬意を払い、その人その人を尊重した言葉かけや対応を行っている。又、環境としても自分だけの自由な時間や空間が持てる様、プライバシーに配慮した対応を心掛けるようにしている。	利用者の経歴をホーム生活の生活援助に活かされており、利用者と職員が持ちつ持たれつの共同生活につなげられている。また、利用者一人ひとりを把握した接遇で本人のプライドや対面性を大事にされている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの判っている事、判り辛い事を踏まえた上で、本人の思いや希望を引き出せる様、その人に合ったアプローチをし自己決定を促がす様に働きかけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆとりある生活を心掛け、「与えるケア」ではなく「よりそうケア」を念頭に置き、その日の状況に合ったその人のペースを大切にしながら自然な1日の流れを提供する様、努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着る服を一緒に選んだり、整髪や整容にも気を配り一人一人に合った支援を行う様にしている。又、必要に応じ散髪や毛染め等、希望に沿ったおしゃれが出来る様、支援・介助している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみとなる様、季節感(行事等)を大切にし、教わったり教えたりしながら、個人の能力に合った作業を共に行う様にしている。又、その事で自信を持って頂き、自身の存在意義の確認等にも役立つ大きな要素となっている。	改装されて少し広くなった居間兼食堂は、寛ぎ感が漂う空間作りがされている。訪問した日のお昼時は、職員の見守りの中、利用者が配膳に動んだり、食卓から過不足の声かけをされたり、全員が食卓に着くまでの賑やかで活気溢れる風景は躍動感があり、食の持つ役割が反映されている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養ケア計画を作成し、個人の栄養バランスや摂取量の目安としている。又、嗜好に応じ差し替えを行ったり、3度の食事と2度のおやつでの水分摂取等、出来る限りの支援を行う様に心掛けている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っており、それぞれのレベルにあった支援を行う様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンの把握に努め、声かけや誘導を行い、前ぶれ等のサインを見逃さない様になっている。更に、日中は全員がトイレで排泄する様にし、出来る限りのおむつ外しを実践している。又、必要に応じ夜間のみポータブルトイレを使用している。	「介護の良し悪しは排泄で決まる」ことを常に言葉にされ、職員にも浸透し、病気疾患や利用者の状態に応じた排泄の自立支援に努められている。また、外出前の声かけ誘導で外出時の安心にもつながられている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	普段の食事で水分や食物繊維を十分摂取出来る様心掛け、毎日のラジオ体操等で程よく運動して頂ける様配慮している。又、医師と連携を図った上で、必要に応じ下剤の使用をしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1番風呂に入りたい人、時間を気にせずゆっくりと入浴したい人等、出来る限り本人の意向に合わせられる様にしており、希望があれば対応する様に心掛けている。又、入浴拒否が多い方へは、声かけ等の対応を工夫し、本人の意思で入浴して頂ける様促している。	みかんの皮を干して入浴剤として利用されている。入浴拒否される方にはタイミングを見計らった言葉かけや環境設定で入浴モードへスイッチが切り替わるように工夫し、支援につなげられている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせた生活のリズムを大切にしており、基本的には本人のタイミングで休息して頂く様にしている。が、昼夜逆転や不眠がみられる場合は、医師の指示の下、眠剤を服薬して頂いている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが何の薬を飲まれているかお薬手帳等で確認し、特に注意が必要な薬に関しては、症状の変化がないか常にチェックをする様にしている。又、服薬は個人のレベルに合わせて見守り・介助を行う様にしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理、洗濯、裁縫、掃除等、要所所で得意分野を活かして家事の役割を持って頂く様にしている。又、菜園作り、習字、絵、音楽等、趣味の分野でも教える立場に立って頂いたりしながら、日々の生活に張り合いを持って頂ける様に支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的なドライブや買い物、散歩や催し物の見学、年に数回の皆での花見等で誰もが外出出来る様に支援している。又、家族との外出や外泊を促したり、天候のいい日にはテラスへ出てティータイムやおしゃべりを楽しむ様にしている。	地域の老人会に加入されている利用者は公民館活動に参加され、地域の高齢者と交流されている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	毎月1～2回程度実施しているレクリエーション「お店屋さん」にて菓子や雑貨、衣類、化粧品等の買い物自身で選んで購入出来る機会を設けている。その際、選定・支払いについては本人の能力に応じて支援を行う様にしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の書いた手紙を職員がポストへ投函したり、電話の際にはかけ間違いをしない様、番号をブッシュしたり、耳が遠く会話が困難な際には代行したりして支援している。又、電話はいつでも自由にかける事が出来る様にしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の食堂や廊下には季節を感じて頂く事が出来る職員手作りのタペストリーや季節の草花を飾り、ホームの外には季節の花を植えたりして安らぎを感じて頂ける様に努めている。又、廊下には手すりを設置し移動がスムーズに行える様に配慮している。他、環境整備の一環として十分な換気を行う様心掛けている。	居間の窓越しに見えていた空き地に民家が立ち、人の気配や生活感が臨場的に伝わり、居間の雰囲気も明るくなっている。ホームの特徴である利用者と一緒に考え、住み込みやすいように内装改築を行っており、毎日の生活が溶け込んだ生活環境になっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の向いた場所で思い思いに過ごして頂ける様、所々に椅子やソファを設置したり、外のテラスをいつでも利用出来る様にする等、それぞれの居場所が出来る様な演出を心掛けている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	新しい物を用意するのではなく、出来るだけ本人の使い慣れた馴染みの物を持ち込んで頂く様に促しており、見慣れた家具や道具類を設置する事によって、出来る限り本人の居心地のいい居室が再現される様心掛けている。又、全居室は昔ながらの畳にしており、少しでも違和感を持たれない様にと努めている。	見せていただいた居室からは、本人の趣味や社会性、生活歴など窺え、本人の動線に沿った調度品の配置がされており、本人が自分を取り戻したり寛いだりできる環境づくりがされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや掴まれるものを設置し、動きやすい環境づくりを心掛けると共に、一人ひとりのレベルに応じた声かけを意識し、混乱や失敗を事前に防止出来る様努めている。		